

審査の結果の要旨

氏名 伊藤 潤一

本論文は、アメリカ型の建築設計プロセスであるデザイン・アーキテクトによるデザイン・ディベロップメント図を中心とした設計手法の日本における実践を通して、その日本型の建築設計プロセスのあり方を分析し、それによる都市景観整序への貢献を明らかにしたものである。

論文は、序論にあたる第 1 章と結論を述べる結章のほか、ケーススタディの対象となる三井本館街区再開発計画に関して、その概要を明らかにした第 2 章、同再開発計画における設計体制と設計プロセスを述べる第 3 章、三井本館街区再開発計画における主要な新築部分である室町新館に関して、その低層部のデザイン・ディベロップメント図のあり方を論じた第 4 章、同じくそのタワー部のデザイン・ディベロップメント図を論じた第 5 章から成っている。このほか、補章として、三井本館街区再開発計画と同様の歴史的建築物を含む超高層再開発の他事例を比較のため紹介している。

第 1 章は、研究の目的と方法、既往研究、用語の定義、論文の構成を述べている。また、本論文のケーススタディとして取り上げる三井本館街区再開発計画とその設計者の概要を述べている。

第 2 章は、論文の対象とする三井本館街区再開発計画におけるデザイン・アーキテクトの役割とデザイン・アーキテクトによるデザイン・ディベロップメント図の位置づけを明らかにする章である。日本においてあいまいに使用されているデザイン・アーキテクトという呼称をデザイン・ディベロップメント図を用いて、設計プロセスを構築する立場の建築家と定義し、その業務内容を明らかにしている。また、デザイン・ディベロップメント図の内容について、その実態を明確にしている。その結果、デザイン・ディベロップメント図によって、設計業務前半の基本設計業務でありながら、設計業務後半の実施設計業務が建築物のパートごとに含まれることによって、設計のピークを前倒しし、設計意図をよりよく反映した、手戻りの少ない設計プロセスを実現するための手法であることを明らかにしている。

第 3 章は、デザイン・アーキテクトとそのものでのデザイン・ディベロップメント図を採用した三井本館街区再開発計画についてその実際の設計体制と設計プロセスを詳述している。その結果、構想計画段階、国際コンペ段階、デザイン・ディベロップメント図をもとにした基本設計段階およびデザイン・ディベロップメント図をもとにした実施設計段階それぞれの段階におけるよりよい設計意図の共有とコスト管理の相克を克服する具体的な手順

を明らかにしている。

第4章と第5章は、さらに具体的に室町新館の低層部およびタワー部における設計プロセスをデザイン・ディベロップメント図をもとに詳説している。その結果、第4章においては、外装、内部のアトリウムや歴史的建築物との調和に関する成果を、第5章においては、タワー配置、都市軸との調整、シルエットおよび頂部のデザインにおける成果を明らかにしている。

以上をとりまとめる第6番目の章である結章において、ケーススタディとして取り扱った三井本館街区再開発計画において、日本におけるデザイン・アーキテクトの役割とデザイン・ディベロップメント図のあり方が明示されている。

以上、本論文は、とかくあいまいにされがちであった日本の建築設計プロセスにおけるデザイン設計の立場とその有用性を実証的に証明している点において優れた論文として高く評価することができる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。